

優先権主張

出願国 スイス国

出願日 1971年9月27日
(1.3876/71)

①日本国特許庁

公開特許公報

特許願

昭和47年9月27日

特許庁長官 三宅 幸夫 殿

1. 発明の名称 シムハスウ レンドロスク ドウキ
パイロット周波数で振動数を同期
シムメン オウウ シンドロ フライ
にする手段の作用を受ける振動部材
マサ ソナ ソウチ
に用いられるひげを備えた装置

2. 発明者

住所(国名) スイス国、ローザンヌ、シウメン・デ・クロワ・
ルージュ、2
氏名 ジャン・クロード・ベルネ

3. 特許出願人

住所(国名) スイス国、ローザンヌ、シウメン・デ・クロワ・
ルージュ、2

氏名(氏名) ベルナル・ゴライ・ソシエテ・アノニム

代表者 ベルナル・ゴライ

国名 スイス国

4. 代理人

住所 東京都港区芝西久保明舟町15番地(虎の門電気ビル)
(電話 03(502)1476(代表))

氏名 弁護士(4013) 江崎 光 野

①特開昭 48-43369

④公開日 昭48.(1973)6.22

②特願昭 47-96968

②出願日 昭47.(1972)9.27

審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号

②日本分類

702724

109 A22



明 細 書

1. 発明の名称 パイロット周波数で振動数を同期
期する手段の作用を受ける振動部
材に用いられるひげを備えた装置

2. 特許請求の範囲

パイロット周波数で振動数を同期する手段の作用を受ける振動機構に用いられるひげを備えた装置において、ひげを、少なくとも1つの外側の部分と内側の部分との2つの部分に分割してほぼ半径方向に位置する連結片により該2つの部分を連結し、さらに2つの止めを設けて、振動に際し前記半径方向の連結片が前記止めに突当り以つて前記止めにより規定される限界を前記振動の角度が越えないようにしたことを特徴とする装置。

3. 発明の詳細な説明

振動子が所定の振動角を越えようとする度毎に振動子を弾性的に反撥することにより得られる位相外れ効果を制御パルスの発生に利用した電気駆動部を介して所与のパイロット(案内)

周波数で機械的振動子を同期する方法は既に提案されている。

本発明は、このような振動機構において用いられる特殊なひげ構造に係るものであり、なお、その場合前記振動子はひげを備えたアンプとする。

本発明による装置は、ひげぜんまいを少なくとも1つの外側の部分と内側の部分との2つの部分に分割してほぼ半径方向に位置する連結片により該2つの部分を連結し、さらに2つの止めを設けて振動に際し前記半径方向の連結片が前記止めに突当り以つて前記止めにより規定される限界を前記振動の角度が越えないようにしたことを特徴とするものである。

以下添付図面を参照し、本発明の具体例について説明する。

オ1図およびオ2図に示すひげばねは外側のひげ1と内側のひげ2とに分割されている。これ等2つのひげ部分は、ほぼ半径方向に沿い片5により相互に連結されている。

図面から明らかのように、止め4,5が連結片3の軌路上に配置されており、ひげの振動の角度を制限すると共に該ひげが取付けられている振動部材の回転角を制限する。

才3図および才4図は、才1図および才2図のひげが用いられる振動機構の平面および垂直断面を示す。

ひげ1,23の外端は板6に接続され、その内端はテンブ8のひげ玉7に接続されている。

該テンブは2対の磁石9を有し、該磁石の運動軌路間には固定のコイル10があつて、電気駆動部を構成しているが、これは本発明と直接関連がないので、それについての詳述は省く。

板9とテンブ上受11との間には、板12が挿入され、この板12は、ひげの半径方向の振動片5により横切られる位置に一定の傾を有し、その両側面が才1図および才2図に示す止め4および5を形成している。

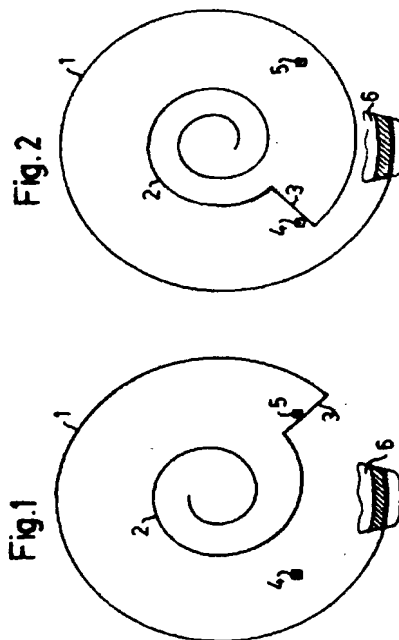
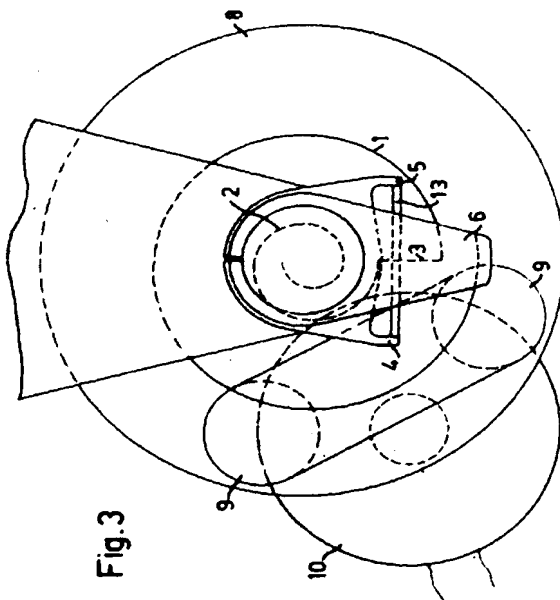
板12は例えば潤滑油を用いるなどして回転することができたがつて2つの止めの位置は

非常に正確に調節できる。

4. 図面の簡単な説明

才1図および才2図は、ひげをその振動の各々2つの極端位置で示す平面図、才3図は振動機構の平面図そして才4図はその垂直断面図である。図中、1,2はひげ部分、3はその連結片、4,5は止め、8がテンブである。

代理人 江崎 光 好



5 願書附具類

明 明 書	1 通
圖 式	1 通
委 任 狀	1 通
優先權証明書	1 通
願 書 調 本	1 通

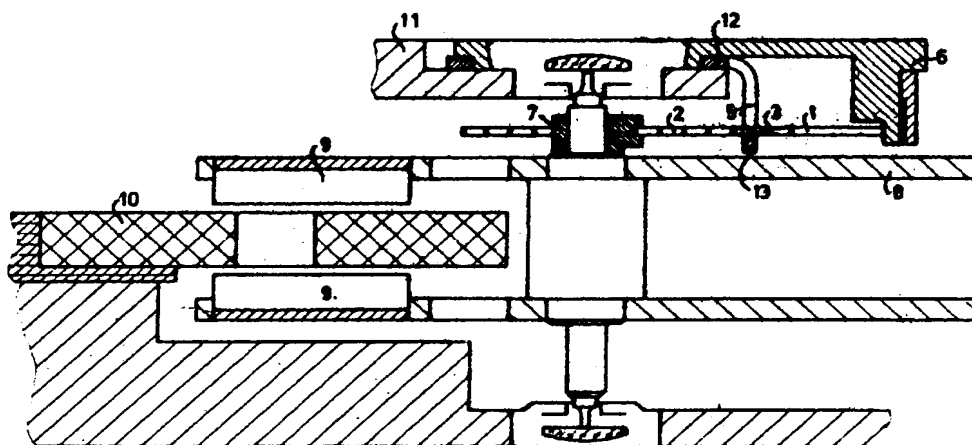


Fig. 4